



□ 6 □

新体操の女子団体は、富岡西と生光学園の実力が拮抗(きっこう)している。昨年の県総体では生光学園が僅差で富岡西の6連覇を阻んで全国総体の出場権を獲得。四国選手権では富岡西が優勝し、奪った。高松市で行われる全国総体(インターハイ)で上位入賞も狙える力を持つ両校の戦いは、今回も接戦となりそうだ。

## 新体操女子 生光学園・富岡西

# 実力拮抗 接戦は必至

【上】表現力の向上を目指して練習に励む生光学園の新体操部員。鳴門アミノパルニューホール【下】難度の高い技に取り組む富岡西の新体操部員。阿南市スポーツ総合センター



ル。感情の起伏を表情豊かに表現し、肘やつま先を伸ばして演技を美しく見せる。練習に重点を置いている。高くとげられたフープを2回回転した後、うつぶせ

の状態で足首を使って取る。大技が最大の見せ場だ。難度が高いためミスすることも多いが、本番で成功させるために何度も繰り返して練習している。昨年の全国を体験した3年の後藤は「表現力をいかに高めるかが今年の課題。まず県総体を進めるよう団結力を高めよう」と話す。

「表現力をいかに高めるかが今年の課題。まず県総体を進めるよう団結力を高めよう」と話す。富岡西は、団体日本代表「エアリージャパン」の候補に選ばれた島田や、延期になった杭州アジア大会代表、松坂らを輩出した名門で、2005年には全国総体で団体5位に入った実績もある。松坂の母、佳子監督が指揮を執り、難度の高い技の練習に取り組んでいる。団体16位だった春の全国選抜大会後、ゼロから出直し「緩急」をテーマに、スピードが早いダイナミックな演技と、ゆったりと魅せる演技を組み合わせた。1人がつま先にフープを三つかけて後ろ向きで高く蹴り上げ、離れた場所の3人がキャッチする大技を冬場から練習。ミスなくできるよう、反復して精度を高めている。岡主将は「難しい技をスムーズにさせるのが強み。チームワークもよく、誰かがミスしてもカバーできる」と自信を見せる。

昨年の県総体はわずか0.15点差で敗れ、挫折を味わった。団体メンバーの一人、3年の今津は「悔しきは今も大きい。今年は絶対に優勝する」とリベンジを誓う。「悔いが残らないよう全力で演じる」と口をそろえ、両校の選手たち。県総体(6月5日)では1枚の全国切符を懸け、13府県の舞台で集大成の舞を披露する。(軍士佳輝) 二わり